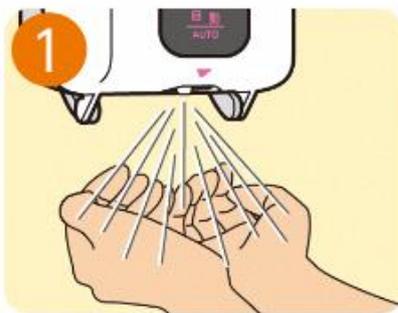


③正しい手指消毒

- ・ 70%濃度のエタノール消毒液の使用を推奨
(入手困難時は60%エタノールでも良い。)
- ・ 1プッシュで3ml 必ず一番下まで押すこと
- ・ 乾くまで擦り込む



1 液状の速乾性手指消毒剤を指を曲げながら適量手に受ける



2 手の平と手の平と擦り合わせる



3 指先、指の背をもう片方の手の平で擦る (両手)



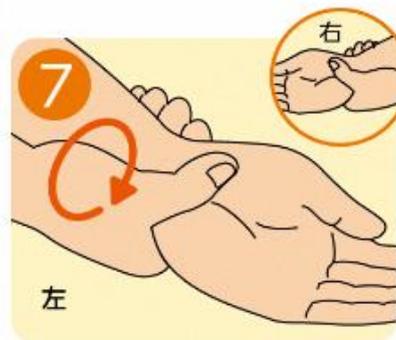
4 手の甲をもう片方の手の平で擦る (両手)



5 指を組んで両手の指の間を擦る



6 親指をもう片方の手で包みねじり擦る (両手)



7 両手首までていねいに擦る



8 乾くまで擦り込む

④咳エチケット

咳やくしゃみを手で押さえると…
その手で触ったものにウイルスが付着
→ドアノブなどを介して他の方に病気をうつす
可能性あり。咳エチケットが大切。

3つの咳エチケット



何もせずに
咳やくしゃみをする

咳やくしゃみを
手でおさえる



マスクを着用する
(口・鼻を覆う)

ティッシュ・ハンカチで
口・鼻を覆う

袖で口・鼻を覆う

⑤マスクの種類は？

■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果)

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド
						
		不織布 	布マスク 	ウレタン 		
	吐き出し飛沫量					
	100%	20%	18-34%	50% ^{※2}	80%	90% ^{※2}
	吸い込み飛沫量					
	100%	30%	55-65 ^{※2}	60-70% ^{※2}	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	

※2 豊橋技術科学大学による実験値

マスク着用の考え方及び就学前児の取扱いについて

- アドバイザリーボードで示された専門家の考え方（5/19）も踏まえ、以下のように対応する。
 - 基本的な感染対策としてのマスク着用の位置づけは変更しない
 - 身体的距離が確保できないが、会話をほとんど行わない場合のマスク着用の考え方を明確化
 - 就学前の児童（2歳以上）のマスク着用について、オミクロン株対策以前の取扱いに戻す
- 引き続き、マスク着用を含めた基本的な感染対策（手指衛生や換気など）を徹底していただくとともに、こうしたマスク着用に関する考え方は、リーフレット等を作成し、丁寧に周知・広報を行う。

1. マスク着用の考え方

	身体的距離(※)が確保できる ※2m以上を目安		身体的距離が確保できない	
	屋内(注)	屋外	屋内(注)	屋外
会話を行う	着用を推奨する (十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可)	着用の必要はない 事例①	着用を推奨する	着用を推奨する
会話をほとんど行わない	着用の必要はない	着用の必要はない	着用を推奨する 事例③	着用の必要はない 事例②

(注) 外気の流入が妨げられる、建物の中、地下街、公共交通機関の中など

※夏場については、熱中症防止の観点から、屋外の「着用の必要はない」場面で、マスクを外すことを推奨。

※お年寄りや会う時や病院に行く時などハイリスク者と接する場合にはマスクを着用する。

事例①

- ・ランニングなど離れて行う運動
- ・鬼ごっこなど密にならない外遊び

事例②

- ・徒歩での通勤など、屋外で人とすれ違うような場合

事例③

- ・通勤電車の中

2. 小学校就学前の児童のマスク着用について

- 2歳未満（乳幼児） は、引き続き、マスク着用は奨めない。
- 2歳以上 は、以下のとおり、オミクロン株対策以前の新型コロナウイルス対策の取扱いに戻す。

「保育所等では、個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めない。なお、施設内に感染者が生じている場合などにおいて、施設管理者等の判断により、可能な範囲で、マスクの着用を求めることは考えられる」

(注) 2歳以上については、本年2月の基本的対処方針の改訂時に、オミクロン株の特徴を踏まえた対応とし「保育所等では、発育状況等からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童については、可能な範囲で、一時的に、マスク着用を奨める」としていた。

⑥換気について

基本：30分に1回程度、5～10分

- 1回の換気時間を長くするより、換気回数を多くした方が効果的です。
- 窓や扉、2方向を開放することで換気効率は上がります。



⑦消毒薬の管理と使用方法

次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）

注意：日光や温度の影響、有機物の存在で濃度低下
希釈した液は、24時間で交換する。

アルコール

濃度が60%以上の物を使用（理想は75～95%）

注意：スプレー噴霧

点での接触になるため、消毒液と接しない部分が出る。
ひたひたになる程度まで濡らしてクロス等で清掃が良い。

消毒薬の管理と使用方法

界面活性剤含有の家庭用洗剤

- 家庭用洗剤に含まれる界面活性剤で新型コロナウイルスを効果的に除去可能。
- 効果が確認された界面活性剤が使われている洗剤リストは経済産業省ウェブサイト参照

☆基本は文科省の学校の指針を参考に



児童が陽性となった場合の 基本の流れ

はじめに

- 消毒は本人が触れたところを中心に拭き取り消毒。文科省から出ている指針を参考に。
- 休止は管理者の判断による。
- 陽性者は原則発症後10日間の療養が必要になります。(無症状者は7日間)
- 感染の可能性のある方は最終接触から7日間は利用を控えるようお願いしています。

全体の流れ

陽性者（家族）から施設等へ連絡



調査対象期間を確認

- ①発症日（無症状であれば検体採取日）を確認
- ②調査対象期間（発症2日前～最終利用日）を確認
→その間の利用日を確認



感染の可能性のある方のリストアップ



対応

感染の可能性が高い方とは

1mの距離（手で触れることのできる距離）
で15分以上の接触、必要な感染予防策無しで
接触

上記の他、三密の状況、歌唱など発声を伴う
行動や食事、対面での接触の有無等、状況によ
て総合的に判断します。

リストアップの基準

下記に一つでも当てはまる人は濃厚接触者となります。

陽性者がマスクをしていなかった場合

- ①陽性者と同じ部屋を利用して、マスクをしていない児童・生徒・職員
- ②陽性者と同じテーブルで食事をした児童・生徒・職員
- ③陽性者と特別仲の良いマスクをしていない児童・生徒・職員
- ④陽性者と換気の悪い環境で長時間過ごした児童・生徒・職員
(狭い部屋で集まってゲームをした など)
- ⑤その他 (上記以外で陽性者と密に接触があった児童・生徒・職員)

陽性者がマスクをしていた場合

- ①陽性者と長時間一緒にいたマスクをしていない児童・生徒・職員
- ②陽性者と同じテーブルで食事をした児童・生徒・職員
- ③その他 (上記以外で陽性者と密に接触があった児童・生徒・職員)

感染の可能性が高い方への対応

次の事項をお願いしてください

- ①陽性者と最後に接触した日の翌日から7日間（8日目解除）の外出自粛の検討。検温など自身による健康状態の確認
- ②上記以外の方も、陽性者と接触した翌日から7日間は健康に気をつけてください

大切なのは通常の感染対策

普段からの体調確認

引き続きご協力お願いいたします。

ご清聴
ありがとうございます
ございます

